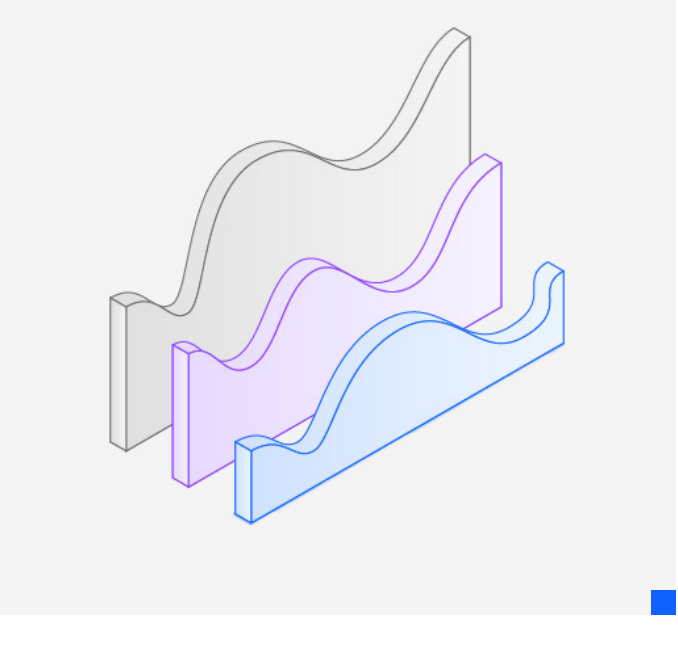
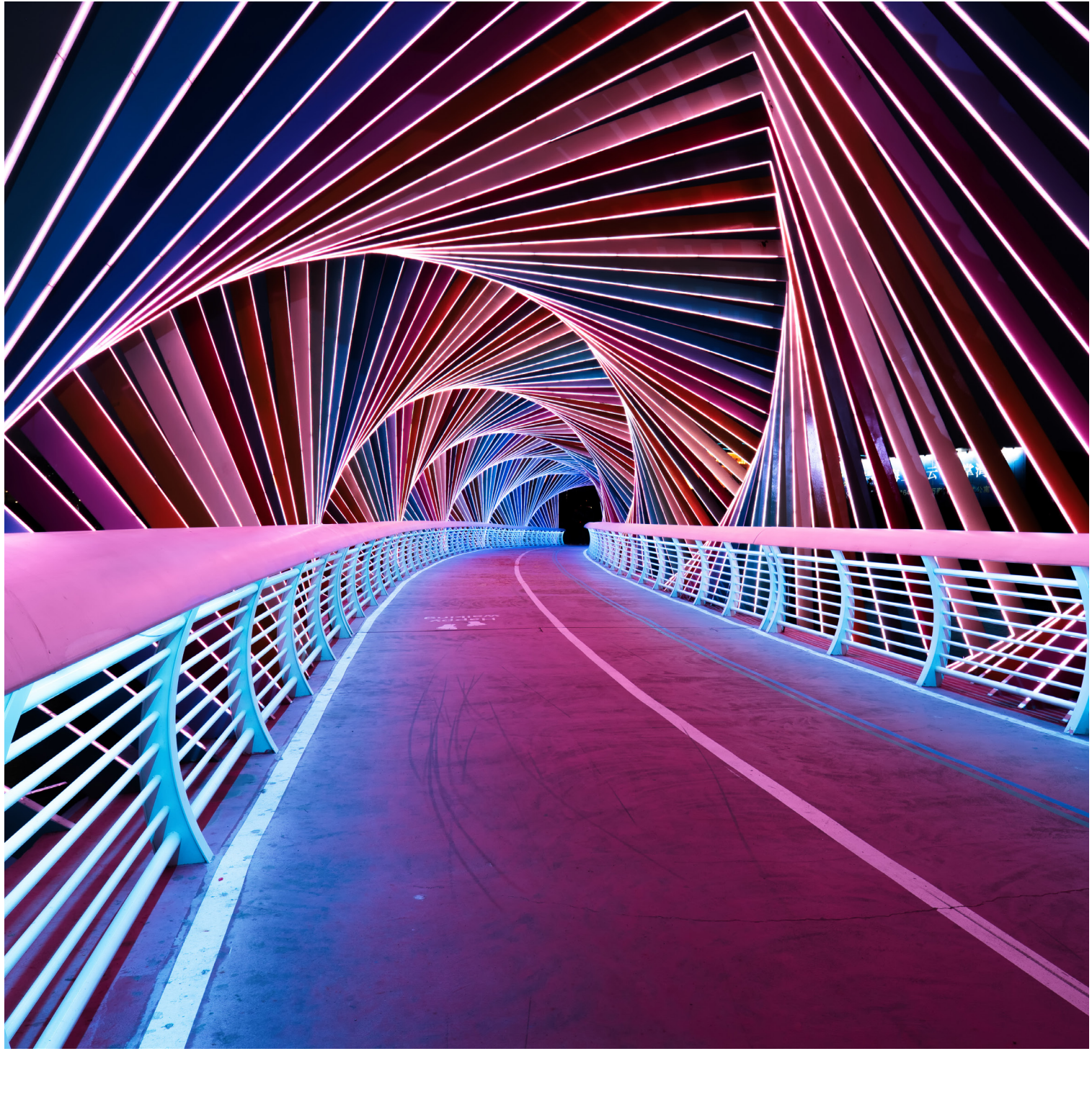
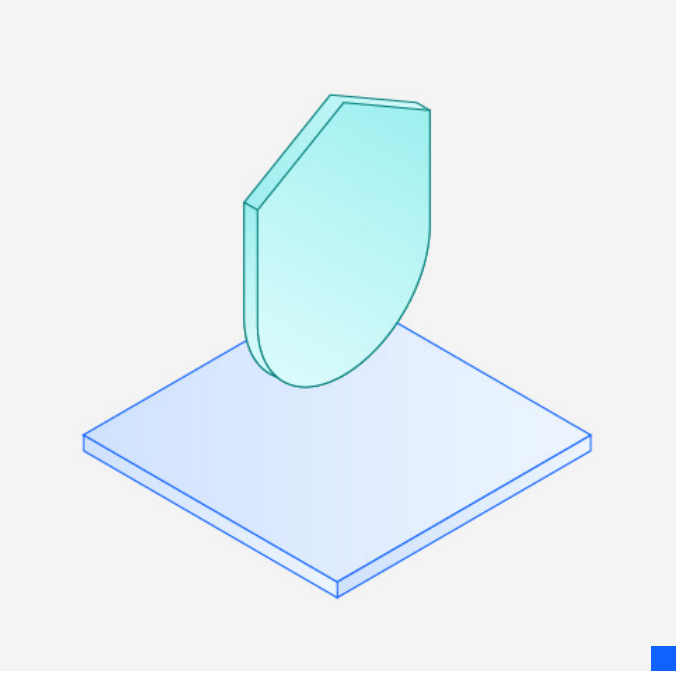


# IBM PowerおよびIBM AIX上でOracleワークロードを稼働させる5つの理由



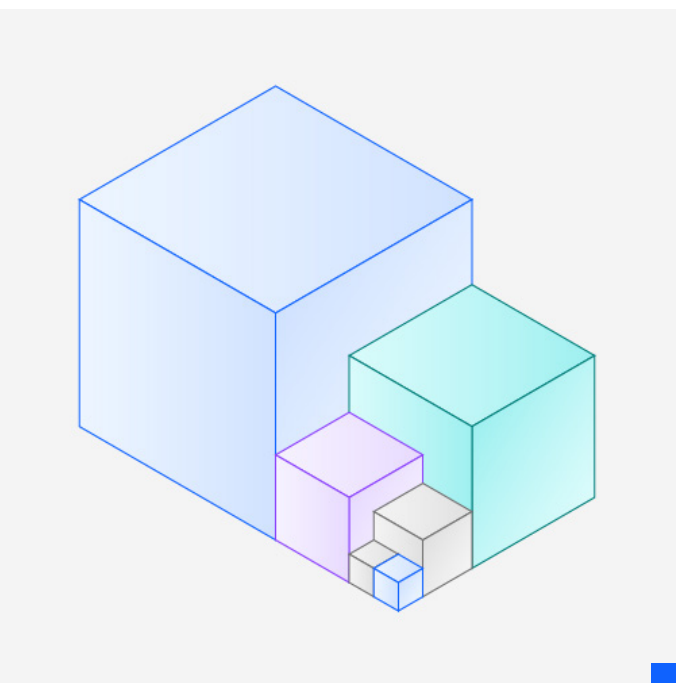
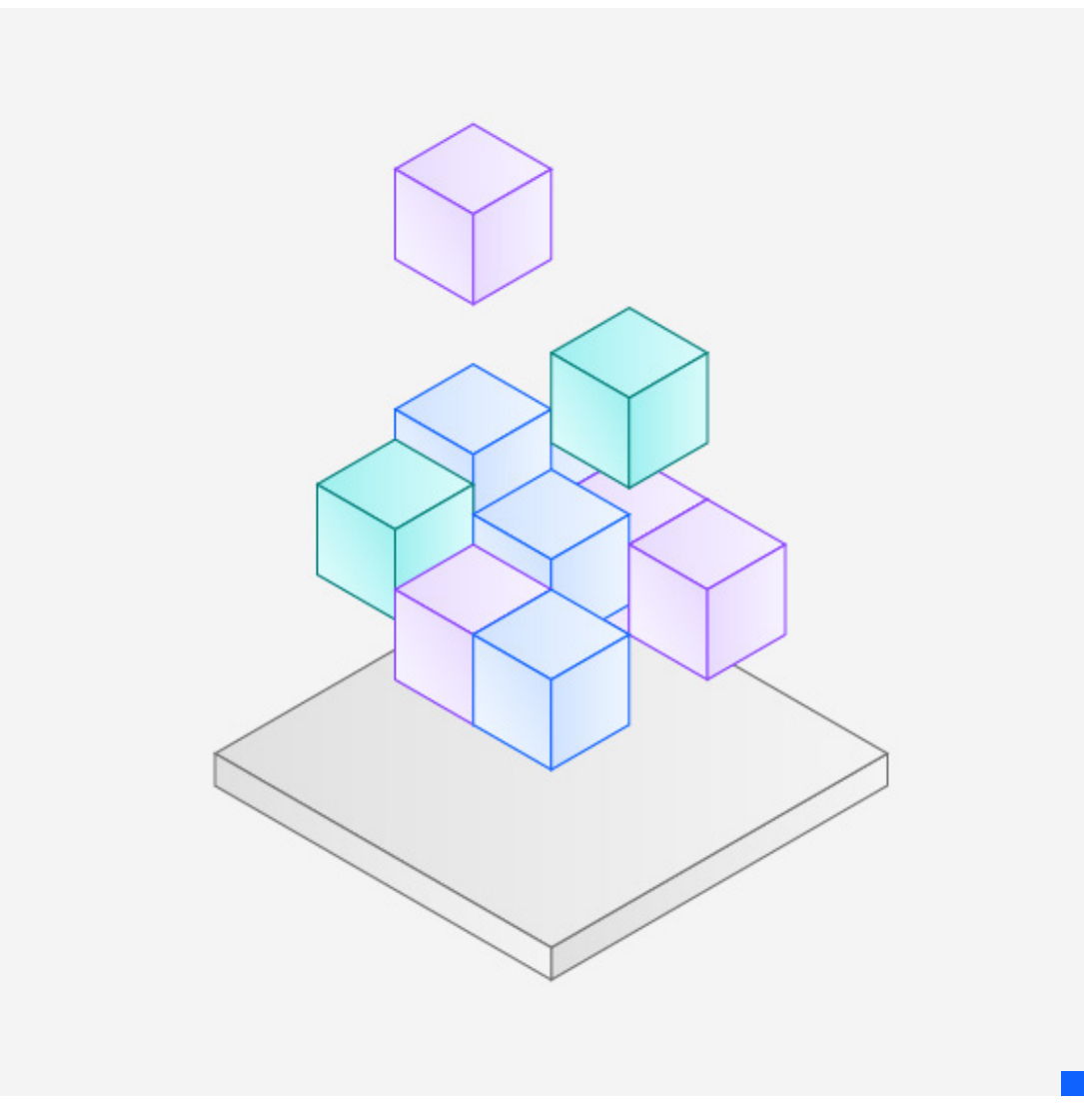
↓ 33%

Oracle Database SE2によるアプリケーション・コストの削減



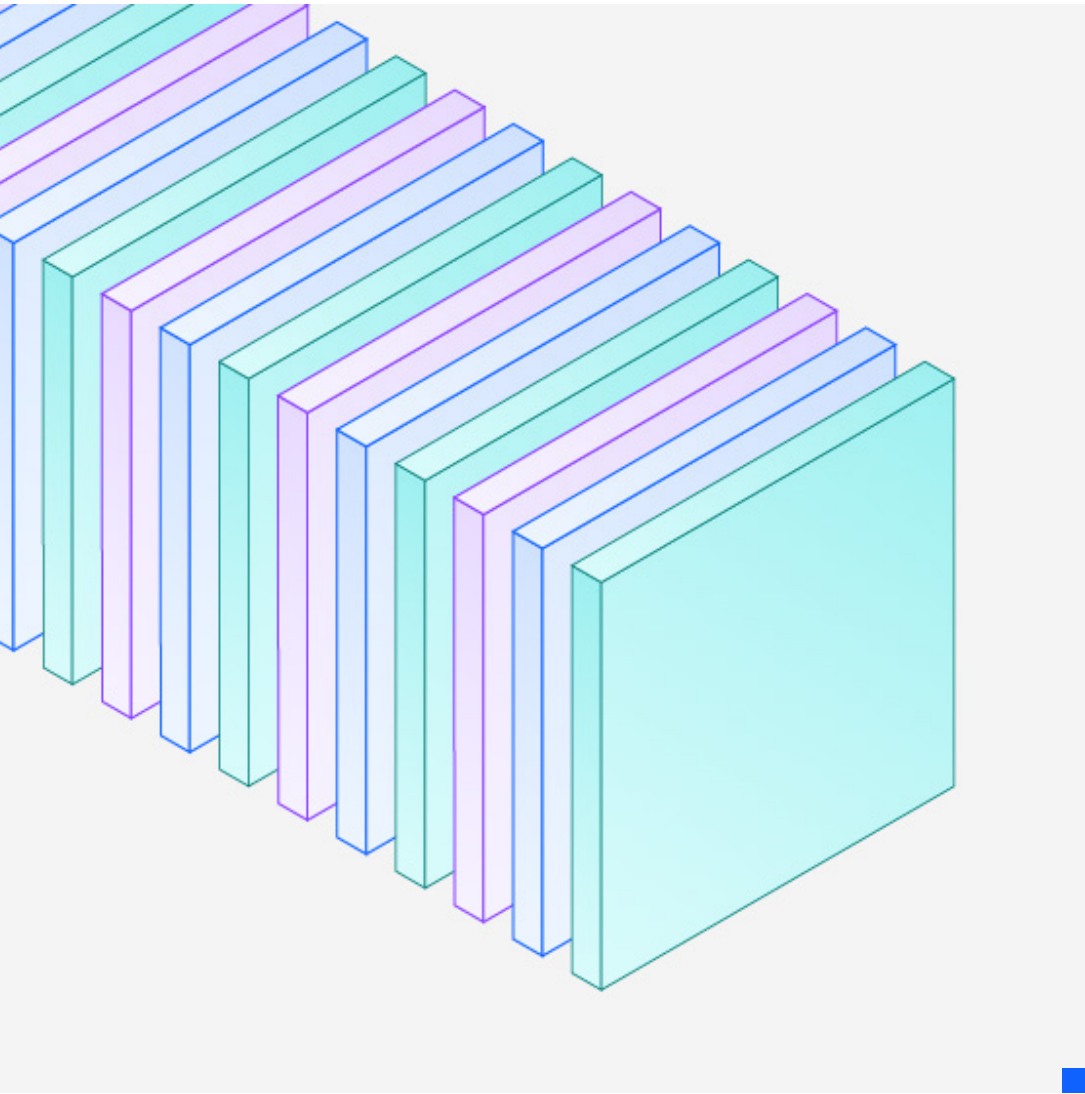
↑ 60x

非ブランドのホワイト・ボックス・サーバーよりも安全



↑ 2.5x

x86サーバーと比べて優れたコア



↑ 99.999%

可用性を最大限に維持する信頼性

## 1 ソフトウェア・ライセンスの節約

Oracleソフトウェアによって完全に認定されたIBM Power10サーバーを使用すると、組織は複数のワークロードを少数のサーバーに統合できますー全体的なシステム使用率が向上し、全体的なコストが削減されます。この効率により、必要なOracleライセンスの削減にもつながります。たとえば、Oracle Database SE2を実行するIBM Power S1014サーバーは、第4世代Intel Xeonスケーラブル・プロセッサと比較して、データベース・インスタンスあたりのアプリケーション・コストを最大33%削減し、エネルギー・コストの改善に必要なサーバーの総数を削減できます。<sup>1</sup>

[詳細はこちら](#) →

## 2 Oracleデータベースを保護する

セキュリティ侵害のコストは増加し続けており、侵害1件あたり平均400万米ドルに達します。<sup>2</sup> IBM Powerテクノロジーは、パフォーマンスに影響を与えない新しい透過的なメモリー暗号化を含む、エンドツーエンドのセキュリティ・プロトコルによって、サイバー脅威から企業を保護するように構築されています。<sup>2</sup> IBM Powerサーバーは、IBM AIX®Trusted Execution (TE)と組み合わせることで、システムの完全性を検証し、高度なセキュリティ・ポリシーを実装して、システム全体の信頼レベルを高めることができます。

[アクセスするには登録してください](#) →

## 3 自信を持って最新化する

データが急速に拡大し続けるにつれて、組織におけるITインフラストラクチャーのモダナイゼーションは益々困難になっていきます。IBM PowerサーバーとIBM AIXオペレーティング・システム(OS)は、従来のOracleデータベースワークロードのモダナイゼーション、新しいアプリケーション開発、およびワークロード統合のための強固な基盤を構築します。Red Hat® Ansible® Automation Platformを使用すると、お客様は、より広範なエンタープライズ自動化戦略の一環として、IBM Powerサーバー上のOracleワークロードを管理できます。

[詳細はこちら](#) →

## 4 信頼性の高いスケーリング

ミッションクリティカルなワークロードには、信頼性、高可用性、およびミッションクリティカルなパフォーマンスに影響を与えない拡張能力を備えたサーバーとOSが必要です。IBM Powerサーバーは、x86サーバーに比べてコア性能が2.5倍優れているため<sup>3</sup>、オラクルのワークロードはボトルネックにぶつかることなく、急速に成長することができます。

[Power10 サーバーのパフォーマンスを確認する](#) →

## 5 稼働時間と信頼性の最大化

オラクルは、Powerシステム上で自社製品を認証しており、包括的なエンドツーエンドサポート、移植性、効率性など、多くのメリットを提供しています。IBM Powerサーバーは、99.999%の信頼性を提供し、最大限の可用性を維持します。<sup>4</sup> Powerサーバー上のAIX OSとIBMPowerHA®テクノロジーを組み合わせた設計は、顧客に圧倒的なアップタイムをもたらし、可用性を管理・監視して、計画的な停止と計画外の停止の両方を防ぐことができます。

[アクセスするには登録してください](#) →

[IBM AIXの詳細はこちら](#) →

1. デュアルチップ・モジュールPower10プロセッサと192スレッドを備えたIBM Power S1014 24コアサーバーをベースに、コアあたり2スレッドで64コア、合計128スレッドの第4世代Intel Xeonスケーラブル・プロセッサと比較 :<https://ark.intel.com/content/www/us/en/ark/products/232397/intel-xeon-gold-6438n-processor-60m-cache-2-00-ghz.html>; 4 XCCを搭載したIntelプロセッサは、Oracle Database SE2の対象ではなく、MCCのみの対象となります。したがって、Intelが提供できる最大コア数は、2ソケット・システムでソケットあたり32コア、合計64コアです: [https://cdrdv2-public.intel.com/7710132/Intel\\_Server\\_System\\_M50FCP2UR\\_TP5\\_Rev1\\_0.pdf](https://cdrdv2-public.intel.com/7710132/Intel_Server_System_M50FCP2UR_TP5_Rev1_0.pdf); Oracle Database SE2プロセッサあたり17,500米ドルに基づく: <https://www.oracle.com/assets/technology-price-list-070617.pdf>; Oracle Database SE2は、最大容量が2ソケットのサーバーでのみライセンスを取得できます。さらに、Oracleライセンス契約にこれと矛盾する規定がある場合でも、各Oracle Database SE2はいつでも最大16個のCPUスレッドを使用できます: <https://www.oracle.com/assets/databaselicensing-070584.pdf>

2. [ITIC 2022 グローバル・サーバー・ハードウェア、サーバーOSセキュリティ](#)、ITIC、2022年8月(要登録)

3. SPECint Math: (Power10 2170 ピーク /120 コア)/(1620 ピーク / 224 コア)=2.5最大システム SPECint IBM Power E1080 (3.55~4.0 GHz、Power10) 120 コア、8 CPU SPECint スコア 2170 (CPU あたり) スコア 271.25 (コアあたり) スコア 18.08 日付: 2021 年 9 月 2 日現在、Max System SPECint Hewlett Packard Enterprise Superdome Flex 280 (2.90 GHz、Intel Xeon Platinum 8380H) 224 コア、8 CPU Intel Xeon Platinum 8380H Speed 2900 Mhz SPECint Score 1620.00/ CPU Score 202.50/Core Score 7.23 Date:2021 年 2 月 リンクCPU2017 整数レート結果Hewlett Packard Enterprise Superdome Flex 280(2.90 GHz、Intel Xeon Platinum 8380H) (HPE主催テスト) (spec.org)

4. [ITIC 2022 Global Server Hardware, Server OS Reliability Report](#), ITIC, August 2022.(要登録)

